



理学部同窓会だより



発行：2016年12月1日  
発行者：学習院大学  
理学部同窓会

特集

平成28年表彰プロジェクト

第3回理学部同窓会賞受賞者にインタビュー

理学部同窓会では、若い科学者を応援する目的で、毎年各学科の優秀な学生を卒業式の当日に表彰しています。第3回の受賞者は左記の4名の方々です。

- 物理学科 葛生 祥平さん
- 化学科 阿出川 穂さん
- 数学科 豊泉 伸之さん
- 生命科学科 遠藤 彩香さん



4人の学生さんにインタビューしていろいろ話を伺いました。

- ① 現在の状況
- ② そこでのやりがいや苦労
- ③ 大学生活について
- ④ 将来の夢や目標

物理学科 葛生祥平さん

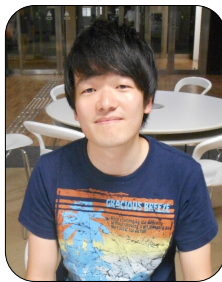


物理学科 葛生祥平さん

- ① 文化服装学院に入学して服飾の勉強をしています。
- ② 卒業時には西坂研究室で磁性細菌というバクテリアの研究をしていて、良い結果も出ていたのですが、服への思いが研究に勝りました。
- ③ 毎日やりがいを感じていて、すごく達成感があります。苦労は家が高いので、バイトと授業の両立が大変なことです。
- ④ 野球サークルに所属していてキャンパスライフも楽しみましたが、4年生で西坂研に入っ

てからは研究一本でした。卒業前に東大の研究会で発表できたのが良い思い出です。④自分が作った服が店頭に並ぶのが夢です。パターンナーになって平面から立体に服を起こす仕事を目指しています。

化学科 阿出川穂さん



化学科 阿出川穂さん

- ① 大学院に進学して、草間研究室で光を駆動力とした新規合成反応の開発をしています。
- ② 上手くいかない反応の次の手を自分で考えることが苦労ですが、諦めずに実験して成功した時がやりがいです。有機合成化学協会シンポジウムで発表しました。
- ③ アカペラサークルに入っていて、ソラマチで歌ったりしていました。大学院に入ってからなかなか参加できません。
- ④ 企業に入って化学系の研究職について、自分で作ったものが売れると達成感があるのではないかと思っています。

数学科 豊泉伸之さん

① 大学院に進学して中野史彦先生の研究室に所属しています。



数学科 豊泉伸之さん

- ② ランダムシミュレーションを用いる素の研究をする準備として、関数解析の本を読んでいます。毎週3時間のゼミ発表の準備は大変ですが、定理の証明などについて、先生や仲間と考えを共有できたときにやりがいを感じます。理科大と津田塾大でも授業を受けに行っていて、知識を増やしている段階です。
- ③ フットサルサークルに入っていて勉強に差支えない程度に体を動かしていました。教員志望なので、バイトで塾の個別指導員を5年間していました。
- ④ 中学か高校の数学の教師を目指しています。数学を志したいと思う生徒ができるような教師になりたいです。

生命科学科 遠藤彩香さん

- ① 東京医科歯科大学に進学して、国立国際医療研究センターの研究所で、炎症反応に対する脂質脂肪合成やセラミドの影響などを調べています。
- ② まったく新しい分野に進んだので、すべてが学びなおしです。一人で決めて研究ができ

ることが楽しい反面、しっかりと計画を立てて結果を出すように言われています。③ 研究室の馬淵先生や研究室の方々と一緒に、血洗いの池を散歩したり、虫取りしたり、学習院大学の都会の中の森を目いっぱい楽しみました。④ どんな形でも研究を続けていきたいです。今までお世話になった先生方に頑張っているなど思ってもらえるような研究者になりたいですね。



生命科学科 遠藤彩香さん

紙面でご紹介するのは、インタビューのほんの一部です。理学部同窓会ホームページに全文掲載しております。4人が充実した大学生活を送り、今はそれぞれの道で頑張っている様子がよくわかりますので、是非ご覧ください。左記QRコード又は下記アドレスで今すぐHPへ！



学習院理学部同窓会  
HP：QRコード

寄稿

# 木下先生の「発信型教育」

野本 元 (昭33物)

学習院大学・理学部・物理科1年生で受けた講義は、数学も物理も当初の回数高校や予備校の授業とあまり変わらず、期待が裏切られたような気がした。多くの講義では先生がノートや本を片手に黒板に向かっておられ、学生に面と向かっておられないようにさえ思えた。しかし、油断大敵、ある時に突然その域を脱した講義になると理解するのに苦労した。

2年生前期半年間の木下是雄先生による光学は1年生で受講した全ての講義とは全く異なっていた。その講義の方法は実に独特であった。第1回目の講義でその片鱗を見せられたが、その講義の最後に「来週までに勉強して来なさい」とB4用紙1枚の資料が配布された。そこには2時間目に相当する幾何光学に関する法則や公式とその明解な解説が謄写版で刷られていた。翌週、講義の初めに、先生からその用紙に記されている事項について質問・意見を求められた。高校物理でも教わった光の反射、屈折に関する事項であり、当然のこととして殆ど誰も質問しなかったと憶えている。その質疑応答に続いて、次は逆に先生か

ら、受講者が当然と思いつみ、鵜呑みにしていた事項について、物理学として本質的な問題に踏み込んだ、全く考慮外の鋭い質問が私たち受講者に飛んできて答を求められた。ここまでが講義時間の半分であり、残りの半分は演習問題が出され、その場で解き、指名されたものが黒板上で解答させられた。

この講義は与えられた資料について充分自習し理解あるいは疑問を抱き、積極的に質疑応答を行うことにより理解を深める必要があった。これが先生の質問に答え、演習問題を解くことができると痛烈に感じた。この方法を当然他の先生方の講義に対しても、学生自ら実施すべきであることを木下先生は我々に無言で教えておられたのだと思う。

それから約25年後、すでに廃刊になってから久しい科学雑誌『自然』(1983年12月号)で『発信型教育から発信型教育へ』(後に『木下是雄集3「日本人の言語環境を考える」』、中公文庫『日本語の思考法』に収録)を読んで、上記の講義の方法は、このエッセイの「発信型教育」を私たち学生に実践さ

れておられたことを遅ればせながら悟った。

先生はこのエッセイで「発信型教育というのは先達の言を学ぶことを主とする教育」とされ、「発信型教育というのは、教師の(他人の)説くことを冷静に受けとめ、しかしそのまま鵜呑みにはせずに吟味する。疑念があれば直ちに質問し、あるいは自分の意見をまとめて整然と主張するように学生を育てる教育」と明言されている。

理学部・同窓会の技術交流会の幹事を数年間務めたことがあり、その講演会の司会者として、演者に対し質問を少なくとも一つはすることにしていた。これはその場の討議の活性化を意識したことと演者への感謝の一形態とを兼ねていた。しかし、その度になんたる愚問かと赤面していたが、これも木下先生が言われる「日本人特有のへ恥の文化」に起因していた。毎回必ず的確な質問・意見を述べられた故F氏やM氏には常に感謝し、今でも感謝している。

最後に希望として、技術交流会においては、講演要旨からこのテーマへの自分なりの問題意識・仮説を抱いて聴講して頂きたい。その上で講演に接し、自分の考えてきた事との関連を基に質問・意見を述べて頂きたい。これが、益々技術交流会の活性化に繋がるものと考えている。

# 村松先生を偲んで

山崎 晶三 (昭47化)

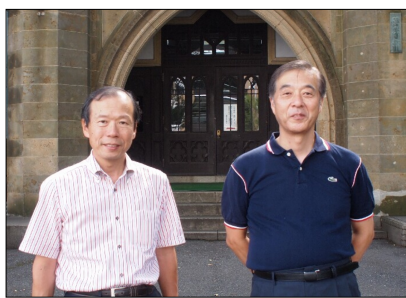
去る7月2日に学習院をこよなく愛した元教授がお亡くなりになりました。化学科元教授村松康行君です。学習院にとっかけがえのない方で残念でたまりません。

村松君は昭和37年に中等科に入学、高等科、化学科と進学し、木越先生の指導の元昭和49年に修士課程を修了。その後、ドイツに留学し、ゲッティンゲン大学にて博士号を取得されました。放射医学総合研究所を経て、平成16年より母校の化学科教授として教鞭をとる事になりました。

研究ではヨウ素化学の第一人者で、三宅賞他数多くの賞を受賞されています。彼の活動は研究に留まらず幅広いものがありました。特に、東日本震災ではいち早く放射能測定装置を福島県へ寄贈したばかりでなく、各種の講演会や報道(NHKスペシャル他)を通して正確な情報を提供し多大な貢献をされました。震災後も福島県の顧問として復興を支援していました。

学習院に対しても、資料館研究員として、刊行物「学習院・目白の学び舎」の発行、南1号館の改修等で貢献されています。輔仁会活動も熱心で、学生時代スキー部に所属していた関係で、教授就任後同部の顧問として活躍なさいました。もちろんスキーの腕前も超一流で、腕を骨折しながら準指導委員試験に合格しています。奥様もスキー部に所属していたので、ご夫婦でスキー部の合宿に参加されたこともありました。

このように村松君は活動の幅が広く、学習院を心から愛した尊敬する良き友でした。彼のご冥福を心からお祈り致します。



村松夫婦と私の3人で会食後  
南1号館前にて 2010年9月18日

## 編集後記

「想」は会誌委員会で編集しています。創刊から委員長を務めていた諸戸さん(昭46物)が退任し、本号から新体制で編集しています。今後も理学部や目白の現状、懐かしい会員の記事や現役学生の話まで、卒業生を繋ぐ誌面を目指します。(金子(昭51物)記)